

SHISHIONE SITE・SHISHIGAKI SITE

鹿尾根遺跡・鹿垣遺跡

——平成9年度扱い手育成基盤整備事業
茅野東部地区発掘調査報告書——

1998年3月

茅野市教育委員会

SHISHIONE SITE・SHISHIGAKI SITE

鹿尾根遺跡・鹿垣遺跡

——平成9年度担い手育成基盤整備事業

茅野東部地区発掘調査報告書——

1998年3月

茅野市教育委員会

はじめに

茅野市には300以上もの遺跡が発見されていますが、その多くが縄文時代の中でも中期と呼ばれる時期のものです。それらの遺跡の多くは八ヶ岳山麓の中でも標高1,000m前後に位置しており、その代表的な遺跡が国の特別史跡に指定されている豊平地区の尖石遺跡です。

その南に位置する泉野地区は、発見されている遺跡も少なく、近年の圃場整備事業で柳川以北については大きな成果をあげているものの、原村に接する柳川以南については、10ほどの遺跡が確認されているものの、ほとんどの遺跡が未調査で、余りよく知られていませんでした。

今回調査を行った鹿尾根遺跡は、担い手育成基盤整備事業茅野東部地区の計画が明らかになった段階で、地元の人からの申し出で確認された遺跡です。

教育委員会ではこの事業に伴う造成工事により遺跡が消滅してしまうのを避けるため長野県教育委員会、長野県地方事務所土地改良課と協議を重ね、国及び県の補助金を得て調査することになりました。

発掘調査の結果、縄文時代の住居址の他、多くの人々の痕跡を発見するなど、昨年試掘調査を行った時の予想をはるかに上回る成果をあげることができました。

また、鹿垣遺跡は遺跡として登録はされているものの、調査をしたことがなく、性格のよく分からない遺跡でした。調査の結果、住居址などの遺構は発見できませんでしたが、縄文土器片などを採集することができました。

今後も地域の方とともに、埋蔵文化財の保護を通して、地域の歴史を解明していく所存でありますので、ご協力のほどお願い申し上げます。

最後に、この事業の実施にあたってご指導いただいた文化庁、長野県教育委員会、調査に参加された関係者の皆様に対し、深甚なる感謝を申し上げます。

平成10年3月

茅野市教育委員会

教育長 両角 勝郎

例言・凡例

1. 本書は、平成9年度扱い手育成基盤整備事業茅野東部地区に係る鹿尾根遺跡発掘調査報告書である。なお、本年度別に発掘調査を行った鹿垣遺跡の報告も併せて行っている。
2. 発掘調査は、国庫及び県費の補助を受け、茅野市教育委員会が実施した。
3. 鹿尾根遺跡の発掘調査は、平成9年5月19日から7月7日までを行い、整理作業は、平成9年11月8日から平成10年3月24日まで行った。
鹿垣遺跡の発掘調査は、平成9年11月10日から11月11日まで行った。
4. 出土品の整理及び報告書の作成は、尖石考古館で実施した。
本報告書に係る出土品・諸記録は、尖石考古館で保管している。

5. 調査の体制

本調査は茅野市教育委員会文化財課が実施した。組織は以下の通りである。

調査主体者	両角徹郎（教育長）
事務局	宮下安雄（教育次長）
文化財課	矢嶋秀一（課長）　鵜飼幸雄（係長）　守矢昌文　小林深志（兼）　大谷勝己 小池岳史　功刀司　百瀬一郎　小林健治　柳川英司　大月三千代 河西克造（県埋蔵文化財センター派遺職員）
調査担当	鹿尾根遺跡担当　小林深志（尖石考古館学芸員） 鹿垣遺跡担当　小林健治（文化財課学芸員）
調査補助員	岡 和宣
発掘調査・整理作業協力者	大宮 文　北原きよあ　小平長茂　小平三行　小平義市　五味一郎　五味計佐雄 川中 進　長田 真　野沢みさ子　萩原光哉　福田幸宗　日黒恵子　森 土子 博物館実習生　渡辺信子（専修大学）

鹿尾根遺跡

第Ⅰ章 遺跡の位置

鹿尾根遺跡は茅野市泉野にあり、八ヶ岳から流れ出す柳川の南1,200mに位置する。標高は1,095mから1,100mを測る。茅野市内から八ヶ岳方面へ向かい、中道の集落を抜け赤嶽神社を通り過ぎたところで南に向かうとそこに本遺跡がある。遺跡から南へ約250mで原村と接する。

本遺跡の位置する柳川以南は大きな河川がないため、起伏は少ない。遺跡のすぐ北には東西に走る小さな水路があるが、これらは江戸時代に開発された堰である。

本遺跡の位置する尾根は畑として利用されており、南北にある一段低い深い谷は水田として利用されている。一段低い谷状地形となっているところとの比高差は、それほど大きくなく2m程度である。

鹿尾根遺跡は、当地区が坦い手育成基盤整備事業茅野東部地区として、造成工事の計画が上がった後に、地域の方から遺跡ではないかとの指摘を受け、市文化財課職員が現地の畑を踏査し、黒曜石を数片採集したために新しく遺跡に登録したものである。

平成8年度には、遺跡とした範囲のはば全面にわたって遺構の分布と密度を確認する発掘調査を行った。その時の調査の結果でも、土坑と考えられる落ち込みが数ヶ所で検出されただけであり、遺物の出土もやはり土器片や黒曜石が数片だけであったため、全面の調査を行っても、それほどの期間は要しないのではないかと考えられた。

第Ⅱ章 調査の方法と経過

調査は5月19日から重機により表土層を剥ぐことから開始した。見学に来た地元の方から客土置き場とするため、掘削を行ったと聞いた西側を施工置き場と定め、東から表土層を剥いでいった。

3月に行った試掘調査では、土坑を幾つか検出しただけであったが、その他にも大きな掘り込みの中から焼土が検出され、住居址になるのではないかと考えられるものがあるなど、予想以上の遺構の検出状況であった。また、これらの遺構の周辺には、倒木痕になると考えられるロームマウンドが多数あり、平面プランの把握を難しくさせた。

作業員が入り遺構の検出を開始したのは5月23日からである。遺構の検出作業は、東側から順次行っていた。前述のように、倒木痕などの他、耕作による歴、さらに産業廃棄物を埋めた大きな穴などのため、遺構の検出作業にも多くの日数を要した。

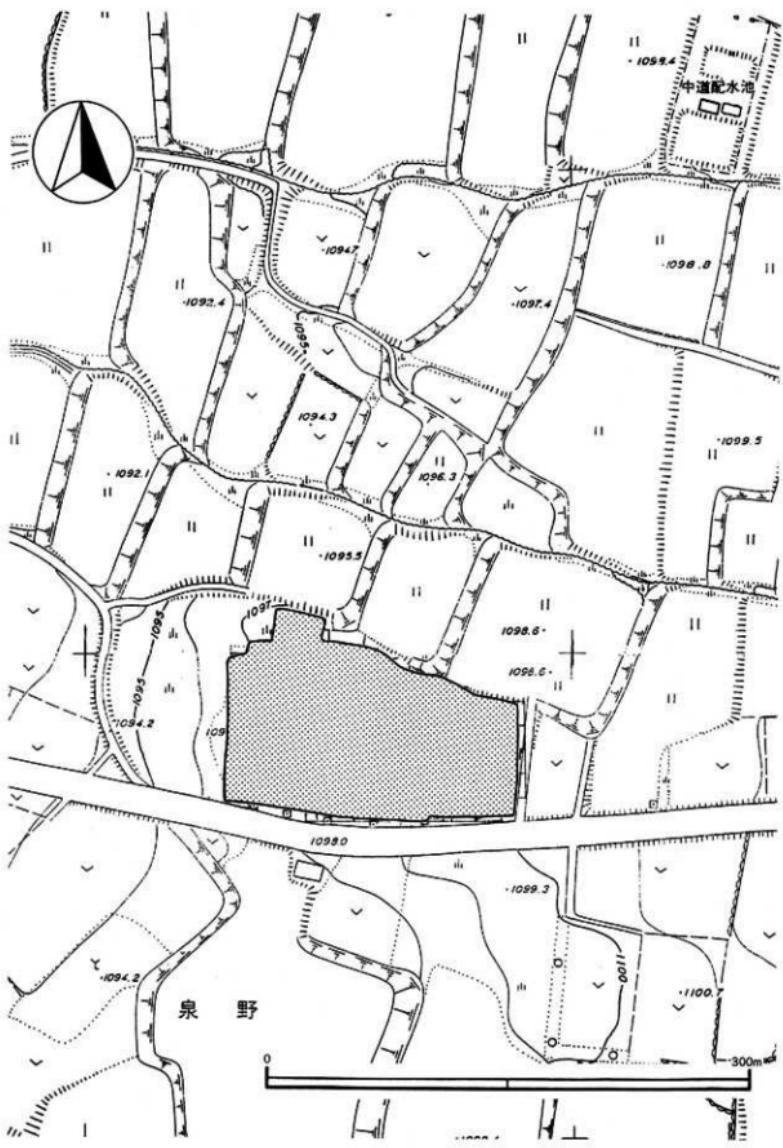
遺構の検出作業に合わせて、5月29日には業者委託により基準杭の設置とグリッド設定、水準測量を行った。調査区は遺跡内を5m四方に区切り、南西隅を基点にX軸をアルファベット、Y軸を数字とし、A-1のように呼称した。

遺構の掘り下げは、6月に入ってから開始した。遺構の掘り下げは、廃土の処理を考え、南西隅から行った。また、遺構検出時に出土地点に置いてあった遺物の回収も同時に行なった。

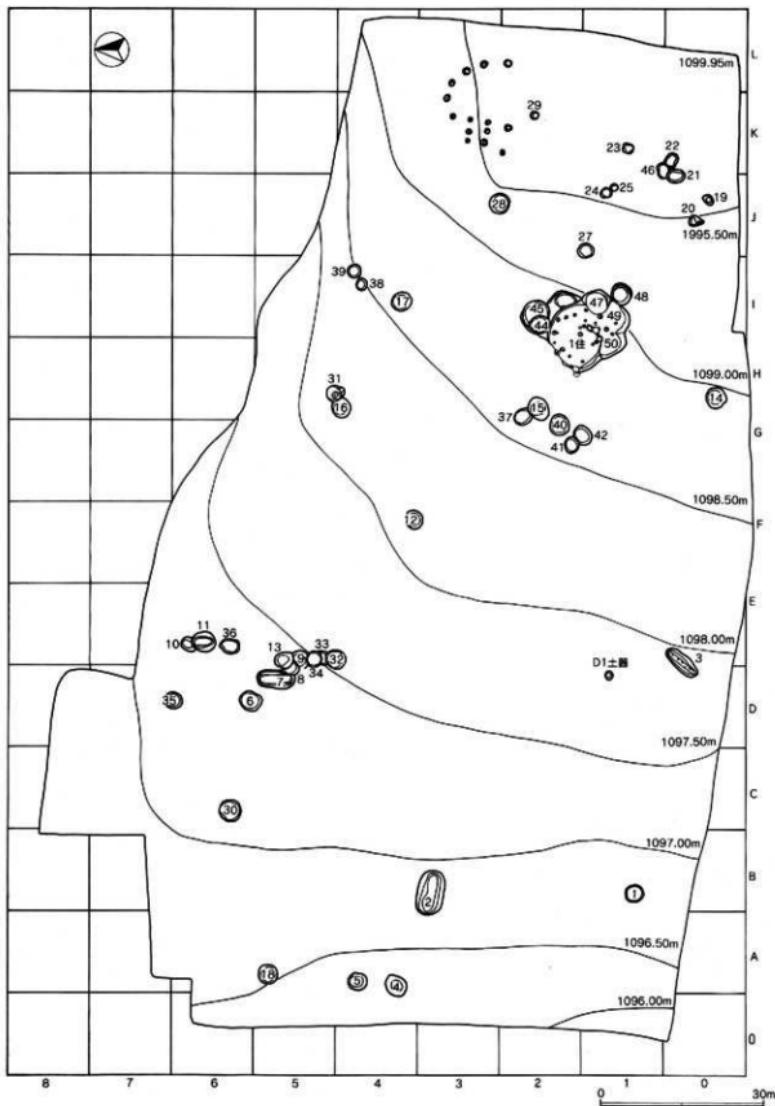
土坑の幾つかは陥れ穴になるようで、大きく深い。その他の土坑も大きいものが多い。時期が窺える遺物



第1図 鹿尾根遺跡・鹿垣遺跡の位置 (1/25,000)



第2図 地形と発掘区域 (1/1,000)



第3図 調査区全体図 (1/300)

を出土する遺構は少ないが、縄文時代後期の土器片を出土する土坑も確認された。そうした土坑の土層断面図、平面図の作成、写真撮影は6月6日から開始した。

ちょうど梅雨の時期にあたり、雨も多かったが、雨上がりの度に遺構の検出作業を行うと、さらに幾つかが検出できるなど、予想をはるかに上回る遺構が検出されていった。

6月18日からは住居址になると考えられる遺構の掘り下げに入った。遺構の検出当初、焼土が検出されていることや、平面プランが不整形であることから、掘り込みが浅いのではないかと考えていたが、焼土は覆土の上面にあるもので、予想以上に深くなり、遺物も出土してきた。また、平面プランが不整形となっていたのは、土坑や倒木痕が重複していたためであった。このため、遺構の掘り下げに多くの時間を要した。

現地での発掘調査は7月7日まで行い、当日と翌日に行った機材の撤収作業で鹿尾根遺跡の現地での作業をすべて終了した。

第III章 遺構と遺物

今年度検出した遺構は、住居址が2軒、土坑が48基、独立土器1基である。

I. 住居址

住居址は2軒が検出された。2号住居址については柱穴だけの検出で、竪穴の掘り込みや炉址はなく、遺物の出土もないため、時期は明らかにできない。

1号住居址（第4図、図版2-1～3）

H・I-1・2区で検出された。表上層除去後、かなり大きな掘り込みが見られ、竪穴住居址になるのではないかと考えていたが、平面形が不整形であることや遺構確認面で焼土が見られたことから、耕作などにより、ほとんどが破壊されているのではないかと考え、土坑の掘り下げを優先して行っていた。他の遺構の調査がほぼ終了し、本址の掘り下げに入ったところ、遺構確認面で検出された焼土は覆土上層にあるもので、意外と遺存状態が良く、遺物の出土も多く見られた。しかし、住居址に重複する土坑や倒木痕が多数あり、似たような覆土であることから、新旧関係を見極めるのが難しい状態であったため、掘り下げに時間を要した。

土層観察により新旧関係の明らかになったものには本址と50号土坑があるが、本址の方が新しい。その他、倒木痕との新旧関係では倒木痕の方が新しいが、これは本遺跡における切り合い関係にある他の遺構と倒木痕についても言えることである。

遺構が幾つも重複しており、正確な規模は不明であるが、遺存状態のよい北東壁から南北壁までが396cmであることから、径が4m前後の円形を呈していたものと考えられる。遺構の深さは、最も深いところで55cmほどである。

炉はほぼ中央に地床炉があるが、南西の壁際にも焼土が見られる。

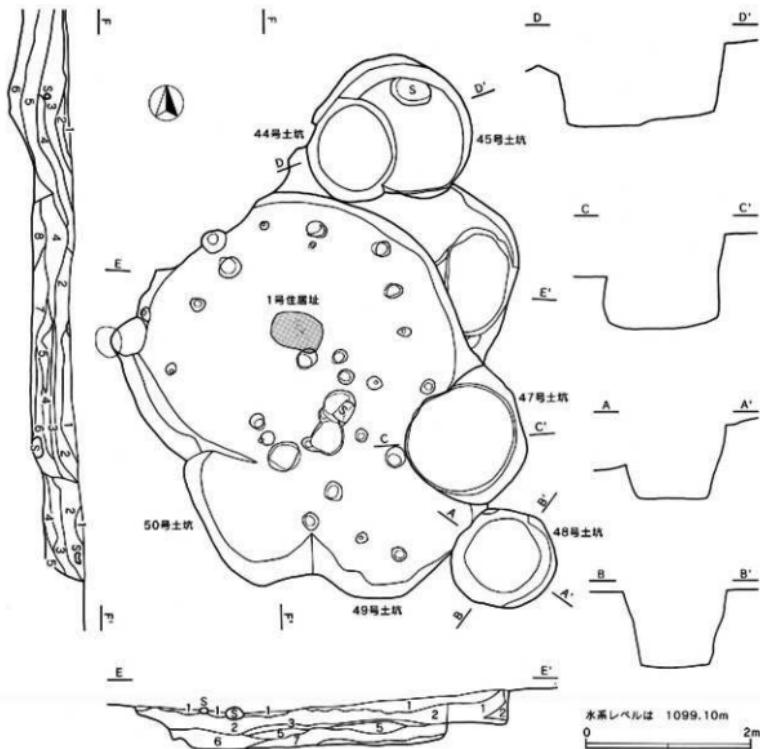
柱穴は深さが8cmから48cmまでのものが二十数個見られるが、主柱穴になるような大きなものは見られない。

遺物は覆土の上層から出土するが、床面上から床面上15cmくらいまでが最も遺物の出土量が多く、大型の破片が多い。また、住居址の南西からは、黒曜石のチップが多量に出土している。

本址の時期は、出土した遺物から縄文時代の中期中葉に位置すると考えられる。

2号住居址（第5図）

K・L-2・3区で検出された。周辺がかなり削平されているようで、住居址の掘り込み、炉址などは検出で



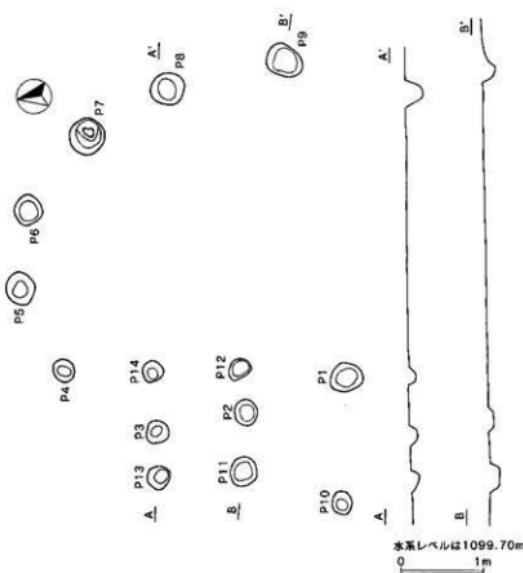
第4図 1号住居址 (1/60)・土坑 (1) (1/60)

きなかったが、柱穴が円形に回っていることから住居址とした。北西方向に柱穴が張り出しており、柄鏡型の住居であった可能性がある。そうなると、遺物の出土がなく時期は明らかでないが、縄文時代中期末から後期にかけての時期を与えられようか。

2. 土坑 (第4、6~13図、図版3~12-2)

本遺跡からは48基の土坑が検出された。一括土器が出土し、時期が明らかになったものは、1号土坑だけで、後期前半の土器片が出土している。また、30号土坑からは、赤色塗彩された疖状耳飾の半欠品が出土していることから、やはり縄文時代の後期に位置するものと思われる。

本遺跡で特徴的な土坑として、断面形が寸胴形のものがある。5・6・12・14・15・16・17・18・30・31・32・34・37・40・41・42・44・45・46・47・48・50号土坑の22基が検出されている。平面形態はほぼ円形で、



第5図 2号住居址 (1/60)

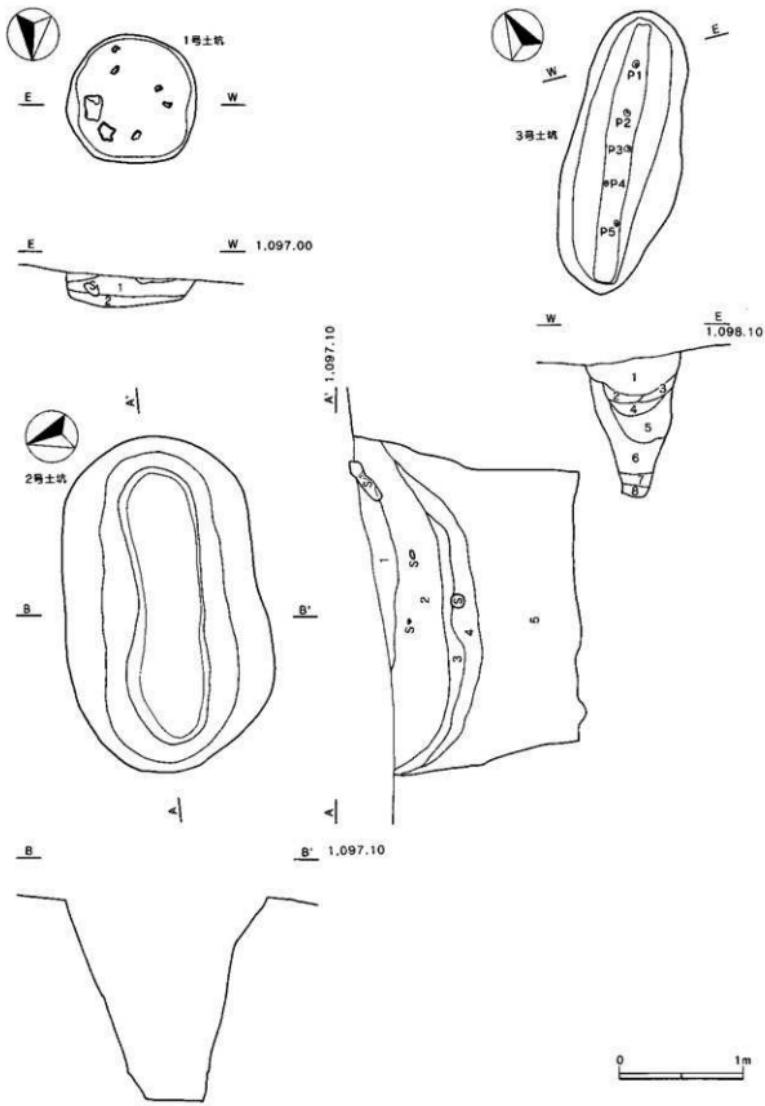
径が最大で180cm、最低でも98cmを測る大型のものである。深さは30cmから115cmと幅がある。中には47号土坑のようにややオーバーハングしているものも見られる。出土している遺物の多くは縄文土器の破片で、時期を明らかにできるものは少ないが、30号土坑のように赤色塗彩された土製丸状耳飾の半欠品が出土しているものや、17号土坑のように径30cmを超える礫が底面近くから出土しているものがあり、墓壙として位置付けられるものが多いと思われる。また、14号土坑のように覆土の中層に焼土のあるものもある。4号土坑のように、断面形が楕円形になる土坑もこれに含めてよいかもしれない。

陥し穴と考えられる土坑は2・3・7・11号土坑の4基である。これらは規模や形態、長軸方向がそれれ異なっている他、分布にも規則性がないことから、異なった時期のものではないかと思われる。

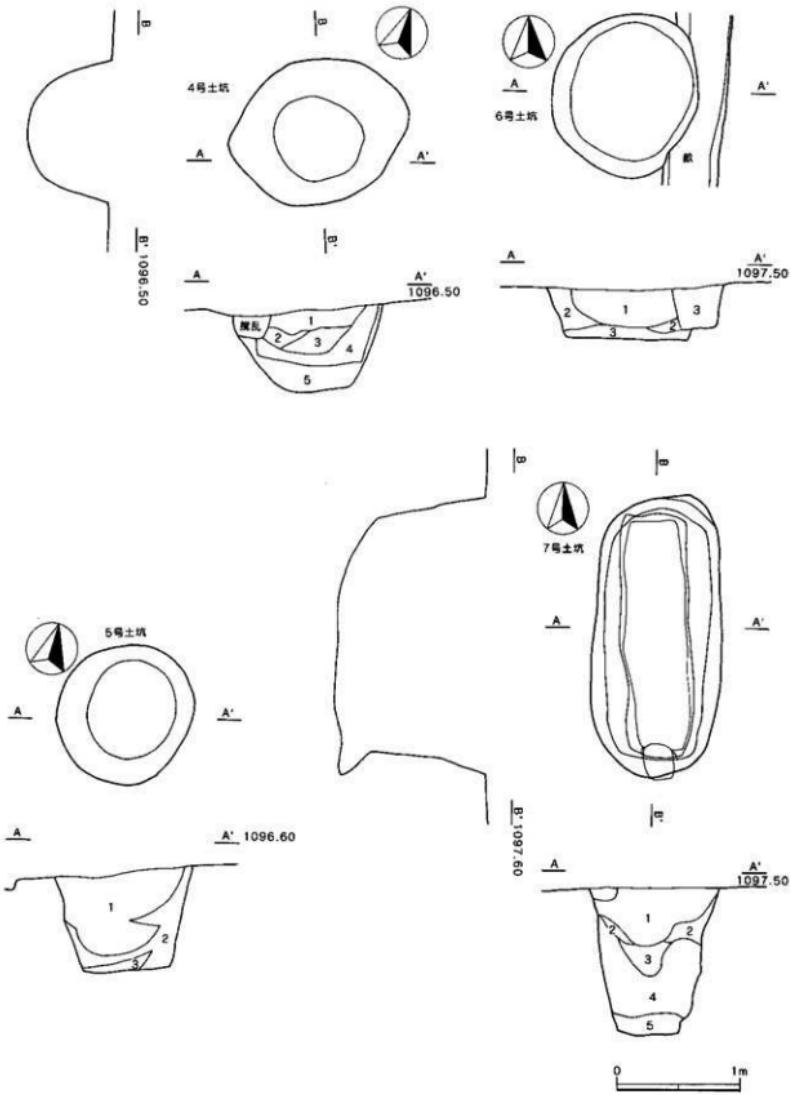
3号土坑は坑底の小ピットの先端がかなり尖ったものであり、本市に隣接する原村で検出されている陥し穴に類似している。

墓壙と考えられる土坑と、陥し穴と考えられる土坑を除くと、ほとんどが断面形が皿状で浅いものである。断面が寸削形のものとの切り合い関係では、すべて皿状のものが新しい。

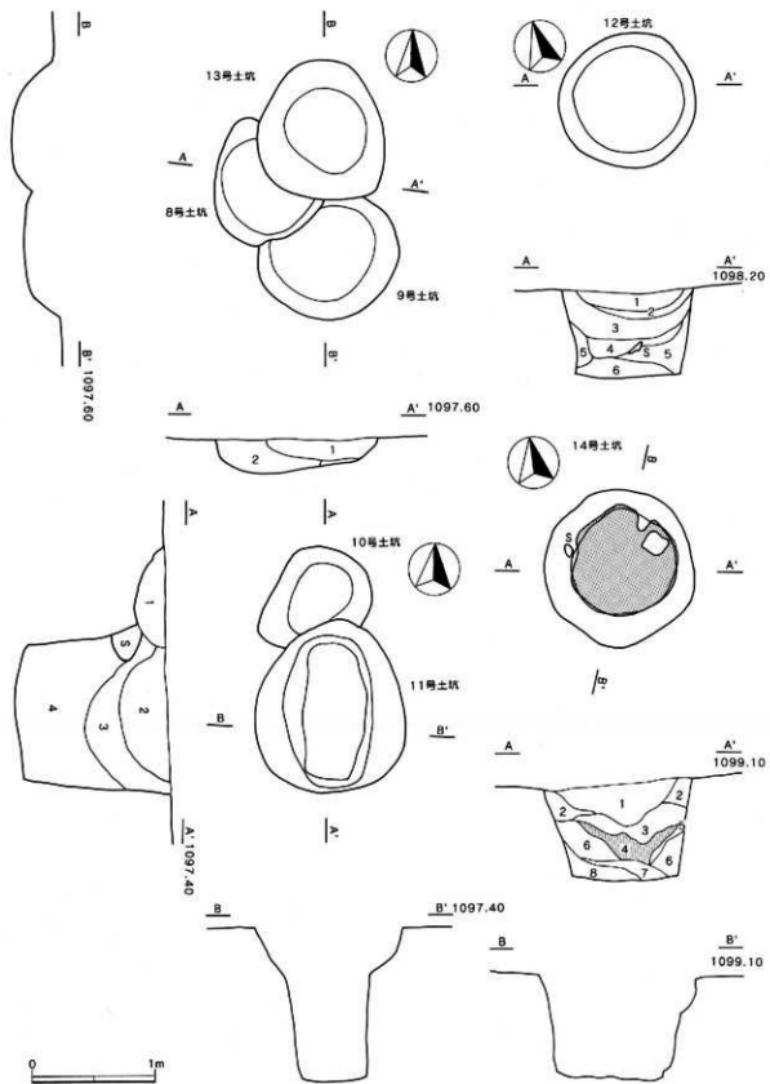
本遺跡でもっとも新しいと考えられる土坑は13号土坑（第8図、図版5-2）で、陶磁器や鉄片が出土している。



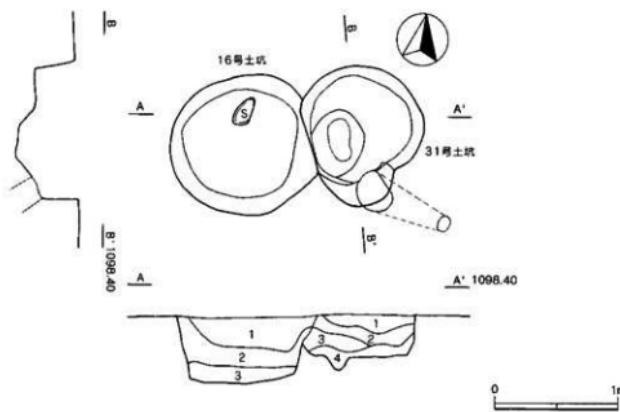
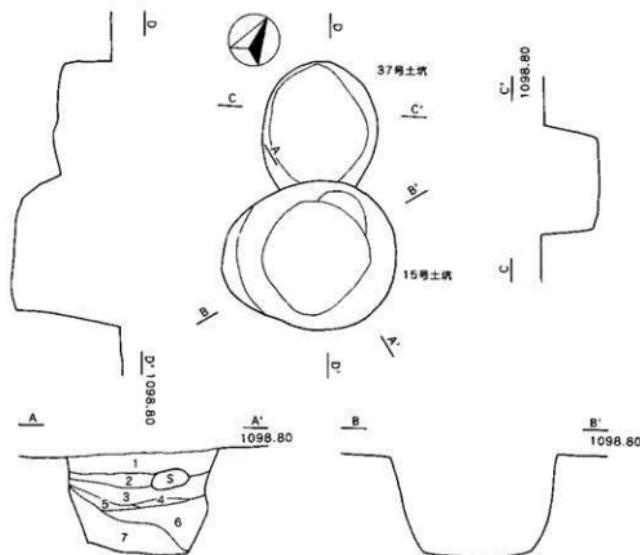
第6図 土坑(2) (1/40)



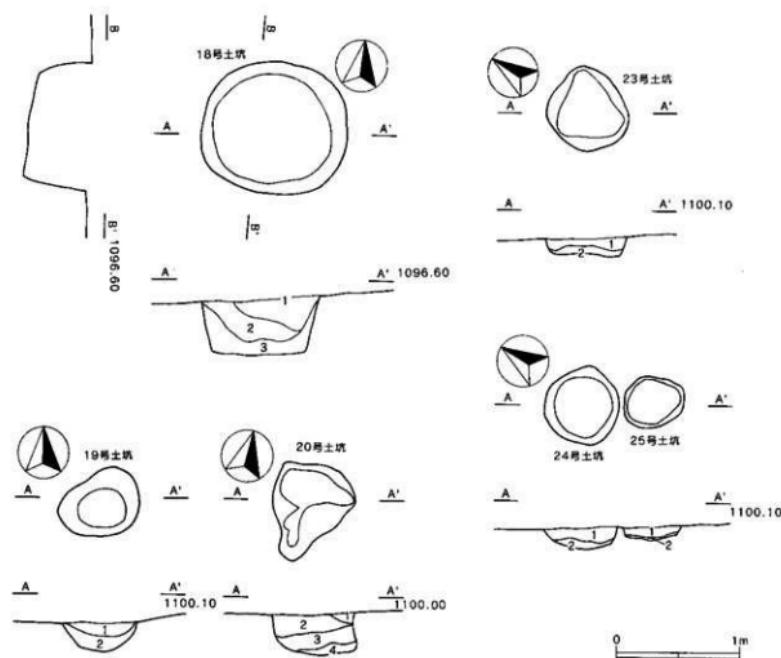
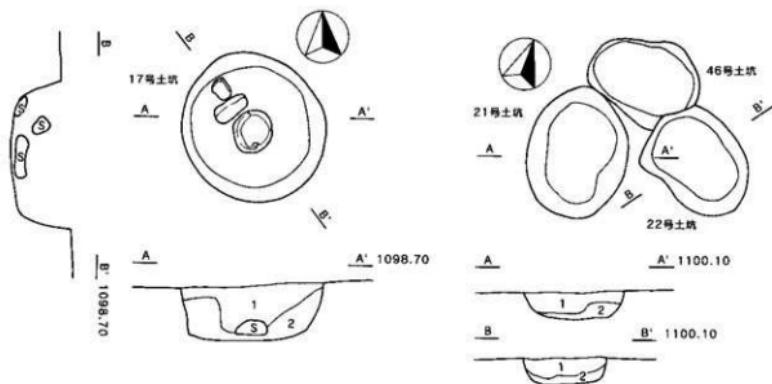
第7図 土坑(3) (1/40)



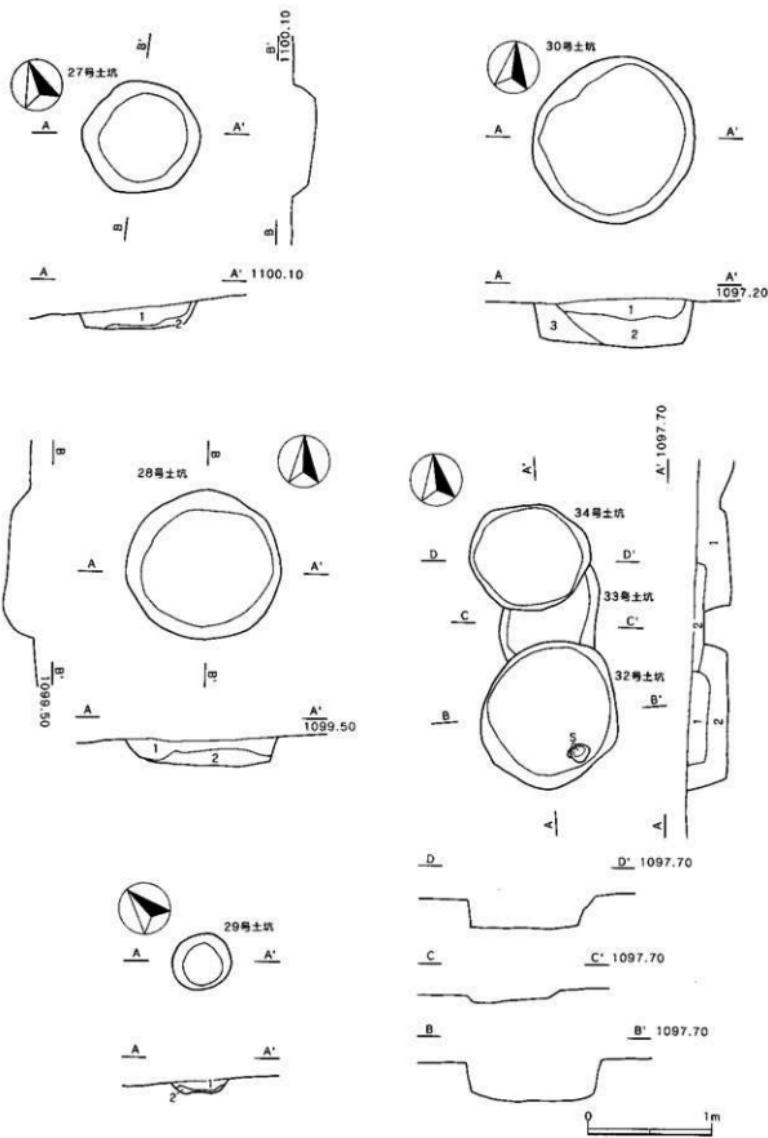
第8図 土坑(4) (1/40)



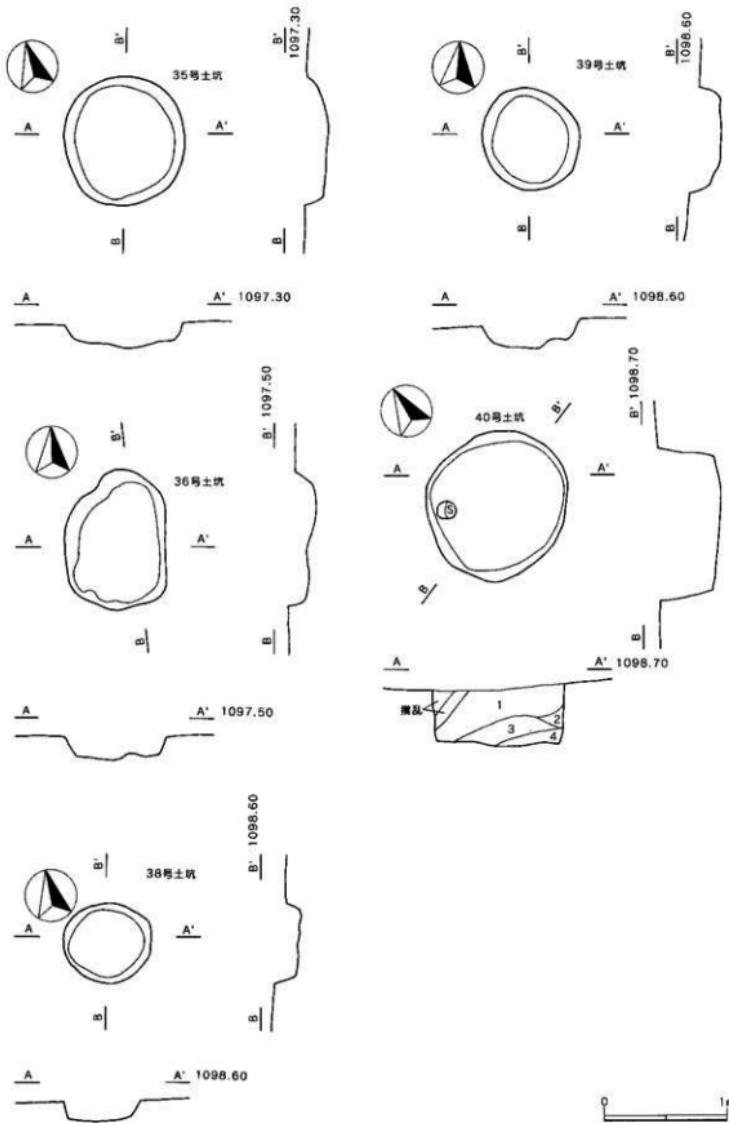
第9図 土坑(5) (1/40)



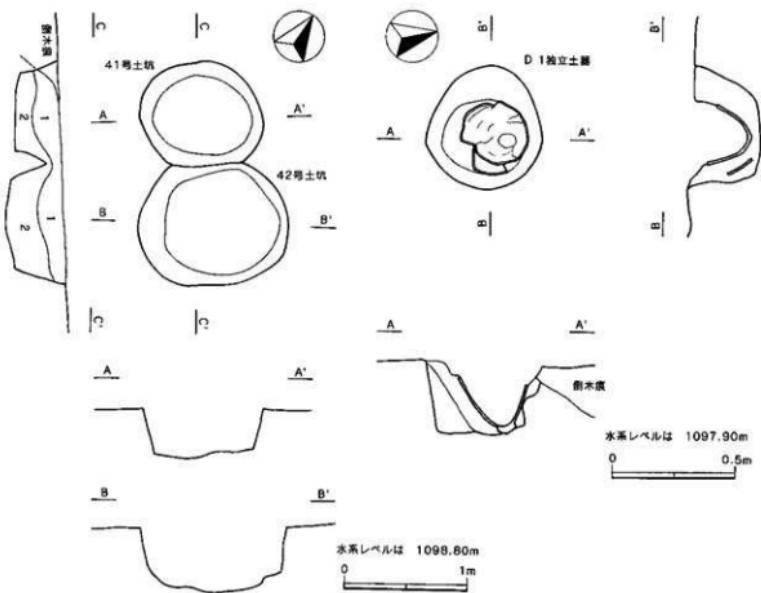
第10図 土坑(6) (1/40)



第11図 土坑 (7) (1/40)



第12图 土坑 (8) (1/40)



第13図 土坑(9)(1/40)・独立土器(1/20)

3. 独立土器 (第13図、図版12-3)

D-1区で検出された。径50cmほどの掘り込みに縄文時代後期初頭の称名甕式土器の一括土器が正位で出土している。周辺の精査を行っても、住居址の柱穴となるような他の遺構を検出できなかったため、独立土器とした。

第IV章 ま と め

本遺跡は、発見時、前年度調査時とも遺物の採集は少なく、それほど大きな遺跡としては考へていなかった。ところが、調査を開始してみると、竪穴住居址になりそうな大きな掘り込みの他、土坑が多数検出された。

遺物の出土は住居址出土のものを含めても、コンテナにして3箱程度と、それほど多くはなかったが、50基近い土坑の調査と、住居址の予想以上の深さにより調査は予定の期間をオーバーした。

遺跡の南を東西に走る道路があるが、その南側にも遺跡が広がっていたと思われるが、耕作による削平によりかなりの段差が付いており、破壊されているものと考えられる。

茅野市の泉野地区も、柳川の北については圃場整備に伴う発掘調査で、考古学的知見が得られてきたが、原村に接した南側については幾つかの遺跡が知られているだけで、本格的な調査を行った遺跡は少ない。そのような中で、本遺跡が新発見の遺跡として登録され、破壊の前に調査されたことは、今後の泉野地区の柳川以南の遺跡を考える中で、重要な位置を占めて来るであろう。

第1表 土坑一覧表(1)

番号	位置	平面形	断面形	平高	底高	底面	側面	出土遺物	調査所	土	○調査		
											出土片10点のうち5点は瓦 一箇体である。複合	瓦	
1	B-1	円形	直形	103	103	55	32	27	調査所	土	土解片10点のうち5点は瓦 一箇体である。複合	瓦	
2	A・B-3・4	横円形	直角はY字形	276	167	50	182	N-78-E	調査所(既ノ物)土解 片・断面石	土	土解片5点に分離できる。下層は褐色土。上層には泥炭などの変化 が認められる。2層は褐色土。3層は褐色土。3層は褐色土。3層は褐色土。	褐色土。	
3	D-E-0	横円形	直角はV字形	233	95	212	21	N-38-E	調査所	土	褐色土。褐色土はローム粘土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。	褐色土。	
4	O-A-4	横円形	直形	159	118	71	68	73	50点に分離できる。	土	褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。	褐色土。	
5	A-4	円形	直角形	114	106	80	70	81	36点に分離できる。下層は褐色土が混じる褐色土。 と、ローム粘土の混じる褐色土が混ざるが、分離 が難しい。	土	褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。	褐色土。	
6	D-5-G	円形	直角形	132	117	110	97	45	36点に分離できる。褐色土を含む褐色土と、ローム粘 土の混じる褐色土が互換となるが、分離がしない が多いため。	土	褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。	褐色土。	
7	D-5	横丸方形	直角はY字形	228	104	188	90	120	N-3-E	子供の可憐な褐色土やローム粘土が 子供の可憐な褐色土やローム粘土が多く混じる。	土	褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。	褐色土。
8	D-E-5	横円形	直形	97	78	78	27		13号土と重複。本社 が古	褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。	褐色土。		
9	D-E-5	横円形	直形	110	84	36			褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。	褐色土。	褐色土。		
10	E-0	横円形	直形	97	80	65	43	25	褐色土。ローム粘土、ローム粘土の混入が多い。 11号土と重複。本社 が古	褐色土。	褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。	褐色土。	
11	E-6	横円形	直角はY字形	142	122	110	50	125	N-2-E	褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。	褐色土。	褐色土。	
12	F-3-4	円形	直角形	112	110	90	86	70	36点に分離できる。いすれも褐色土上で、下層ほどヨー ム粘土の混入が多い。	土	褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。	褐色土。	
13	D-E-5	横円形	直形	113	103	70	67	35	褐色土。褐色土が互換となる。下層ほどヨーム粘土の 混入が多い。	土	褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。	褐色土。	
14	H-0	円形	直角形	128	122	87	85	83	8.8点に分離できる。2m次のローム粘土が混じる。	土	褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。	褐色土。	
15	Q-H-2	横円形	直角形	143	122	92	84	88	9.2点に分離できる。中段の層は褐色土層である。	土	褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。褐色土は褐色土。	褐色土。	
16	H-4-5	横円形	直角形	115	94	88	57		3.8点に分離できる。上層に褐色 土。	褐色土。	褐色土。	褐色土。	
17	I-4	円形	直角形	124	114	58	56	56	3.6点に分離できる。下層はヨーローハウスの混合が多い。	土	褐色土。	褐色土。	
18	A-5	円形	直角形	118	108	87	90	50	2.6点に分離できる。1層は褐色土。2層は褐色土。	土	褐色土。	褐色土。	
19	J-0	横円形	直形	67	55	40	32	24	4.6点に分離できる。1-2・3層は褐色土。	土	褐色土。	褐色土。	
20	J-0	不規則	直形	80	67	63	60	33	2.6点に分離できる。どちらも褐色土であるが、上層に 褐色土が混入する。	土	褐色土。	褐色土。	
21	K-J-0	横円形	直形	107	80	80	55	22	2.6点に分離できる。どちらも褐色土であるが、上層に 褐色土が混入する。	土	褐色土。	褐色土。	
22	K-0	横円形	直形	95	68	75	50	22	2.6点に分離できる。どちらも褐色土であるが、上層に 褐色土が混入する。	土	褐色土。	褐色土。	
23	K-1	不規則	直形	75	60	54	54	16	2.6点に分離できる。どちらも褐色土であるが、上層に 褐色土が混入する。	土	褐色土。	褐色土。	
24	J-1	円形	直形	83	61	49	47	18	2.6点に分離できる。1層は褐色土。2層は褐色土。	土	褐色土。	褐色土。	
25	J-1	横円形	直形	48	42	42	37	12	2.6点に分離できる。1層は褐色土。2層は褐色土。	土	褐色土。	褐色土。	
26												欠番	

第1表 土坑一覧表(2)

番号	位置	平面形	断面形	平質	平坦	底面	壁面	出土物	附註	○参考
27	I - J - 1・2	円形	圓形	96	90	71	71	22	2層に分層できる。どちらも褐色土であるが、上層には炭化物が現じる。	
28	J - 2・3	円形	圓形	125	122	107	99	25	2層に分層できる。上層は黑色土、下層は褐色土、どちらもロームブロック、ローム粒子が多く現じる。	
29	K - 2	円形	圓形	50	46	32	32	12	2層に分層できる。上層は黑色土、下層は褐色土。下層はローム粒子が多く現じる。	
30	C - 6	円形	寸断形	135	130	120	130	40	褐色土の土質試験結果 赤色透影の土質試験結果 4層に分層できる。下層はロームブロックやローム粒子が多い。	
31	H - 4・5	円形	寸断形	105	95	82	82	35	16号土坑と重複。本坑が古。丸底。ビット。伴うか不明。雨裏にアーチマーの痕?	
32	D - E - 4・5	横円形	寸断形	120	111	109	100	35	33号土坑と重複。本坑が古。小さく浅い土坑が発見している可能性あり。	
33	E - 5	横円形	圓形		77	72	70		33号・34号土坑と重複。本坑が古。	
34	D - E - 6	円形	寸断形	98	87	88	80	30	33号土坑と重複。本坑が古。	
35	D - E - 7	円形	圓形	105	98	92	80	16	33号土坑と重複。本坑が古。	
36	E - 6	不整形	圓形	110	82	87	82	23	33号土坑と重複。本坑が古。	
37	G - 2	横円形	寸断形	94	90	80	80	50	褐色土の第二層。ローム粒子、ロームブロックが混じる。	
38	I - 4	円形	圓形	71	66	62	65	18	褐色土の第一層。ローム粒子、ロームブロックの堆。瓦礫は凹凸がある。	
39	I - 4	横円形	圓形	85	78	72	63	25	褐色物が混じる。	
40	O - H - 2	円形	寸断形	125	112	103	90	50	1. 2・3層は褐色土、3層は黑色土 土で、いずれもローム粒子の混入が多い。 壁に分層できる。1・2・3層は褐色土、3層は黑色土。	
41	Q - 2	横円形	寸断形	100	88	80	63	36	2層に分層できる。1層は黑色土、2層は褐色土。下層はローム粒子。ロームブロックの混入が多い。	
42	G - 1・2	円形	寸断形	122	98	93	85	50	2層に分層できる。1層は黑色土、2層は褐色土。下層はローム粒子。ロームブロックの混入が多い。	
43									欠番	
44	I - 2	円形	寸断形	130	110	103	90	100	45号土坑と重複。新田不明	
45	I - 2	円形	寸断形	180		145		92	44号土坑と重複。新田不明	
46	J - K - 0・1	横円形	圓形	92	72	63	53	11		
47	I - 1	円形	寸断形	150	143	132	122	115		
48	I - 1	円形	寸断形	128	122	118	116	95	1号住居と重複。新田不明	
49	I - 1									
50	H - I - 1		寸断形					50	1号住居と重複。新田不明	

第2表 出土遺物一覧表 (1)

番号	遺物種類	位置	土器片		打製石片		石器		石核		磨製石片		磨削石片		鉄石		○その他	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
1	打製石片	H - 1 - 2																
2	打製石片	A - 1 - 2																
3	打製石片	A - 3 - 2																
4	打製石片	D - 1 - 2																
5	打製石片	D - 1 - 3																
6	打製石片	D - 1 - 4																
7	打製石片	D - 1 - 5																
8	打製石片	D - 1 - 6																
9	打製石片	D - 1 - 7																
10	打製石片	E - 1 - 2																
11	打製石片	E - 1 - 3																
12	打製石片	E - 1 - 4																
13	打製石片	F - 1 - 2																
14	打製石片	F - 1 - 3																
15	打製石片	F - 1 - 4																
16	打製石片	G - 1 - 2																
17	打製石片	H - 1 - 2																
18	打製石片	H - 1 - 3																
19	打製石片	H - 1 - 4																
20	打製石片	H - 1 - 5																
21	打製石片	H - 1 - 6																
22	打製石片	H - 1 - 7																
23	打製石片	H - 1 - 8																
24	打製石片	H - 1 - 9																
25	打製石片	H - 1 - 10																
26	打製石片	H - 1 - 11																
27	打製石片	H - 1 - 12																
28	打製石片	H - 1 - 13																
29	打製石片	H - 1 - 14																
30	打製石片	H - 1 - 15																
31	打製石片	H - 1 - 16																
32	打製石片	H - 1 - 17																
33	打製石片	H - 1 - 18																
34	打製石片	H - 1 - 19																
35	打製石片	H - 1 - 20																
36	打製石片	H - 1 - 21																
37	打製石片	H - 1 - 22																
38	打製石片	H - 1 - 23																
39	打製石片	H - 1 - 24																
40	打製石片	H - 1 - 25																
41	打製石片	H - 1 - 26																
42	打製石片	H - 1 - 27																
43	打製石片	H - 1 - 28																
44	打製石片	H - 1 - 29																
45	打製石片	H - 1 - 30																
46	打製石片	H - 1 - 31																
47	打製石片	H - 1 - 32																
48	打製石片	H - 1 - 33																
49	打製石片	H - 1 - 34																
50	打製石片	H - 1 - 35																
51	打製石片	H - 1 - 36																
52	打製石片	H - 1 - 37																
53	打製石片	H - 1 - 38																
54	打製石片	H - 1 - 39																
55	打製石片	H - 1 - 40																
56	打製石片	H - 1 - 41																
57	打製石片	H - 1 - 42																
58	打製石片	H - 1 - 43																
59	打製石片	H - 1 - 44																
60	打製石片	H - 1 - 45																
61	打製石片	H - 1 - 46																
62	打製石片	H - 1 - 47																
63	打製石片	H - 1 - 48																
64	打製石片	H - 1 - 49																
65	打製石片	H - 1 - 50																
66	打製石片	H - 1 - 51																
67	打製石片	H - 1 - 52																
68	打製石片	H - 1 - 53																
69	打製石片	H - 1 - 54																
70	打製石片	H - 1 - 55																
71	打製石片	H - 1 - 56																
72	打製石片	H - 1 - 57																
73	打製石片	H - 1 - 58																
74	打製石片	H - 1 - 59																
75	打製石片	H - 1 - 60																
76	打製石片	H - 1 - 61																
77	打製石片	H - 1 - 62																
78	打製石片	H - 1 - 63																
79	打製石片	H - 1 - 64																
80	打製石片	H - 1 - 65																
81	打製石片	H - 1 - 66																
82	打製石片	H - 1 - 67																
83	打製石片	H - 1 - 68																
84	打製石片	H - 1 - 69																
85	打製石片	H - 1 - 70																
86	打製石片	H - 1 - 71																
87	打製石片	H - 1 - 72																
88	打製石片	H - 1 - 73																
89	打製石片	H - 1 - 74																
90	打製石片	H - 1 - 75																
91	打製石片	H - 1 - 76																
92	打製石片	H - 1 - 77																
93	打製石片	H - 1 - 78																
94	打製石片	H - 1 - 79																
95	打製石片	H - 1 - 80																
96	打製石片	H - 1 - 81																
97	打製石片	H - 1 - 82																
98	打製石片	H - 1 - 83																
99	打製石片	H - 1 - 84																
100	打製石片	H - 1 - 85																
101	打製石片	H - 1 - 86																
102	打製石片	H - 1 - 87																
103	打製石片	H - 1 - 88																
104	打製石片	H - 1 - 89																
105	打製石片	H - 1 - 90																
106	打製石片	H - 1 - 91																
107	打製石片	H - 1 - 92																
108	打製石片	H - 1 - 93																
109	打製石片	H - 1 - 94																
110	打製石片	H - 1 - 95																
111	打製石片	H - 1 - 96																
112	打製石片	H - 1 - 97																
113	打製石片	H - 1 - 98																
114	打製石片	H - 1 - 99																
115	打製石片	H - 1 - 100																
116	打製石片	H - 1 - 101																
117	打製石片	H - 1 - 102																
118	打製石片	H - 1 - 103																
119	打製石片	H - 1 - 104																
120	打製石片	H - 1 - 105</																

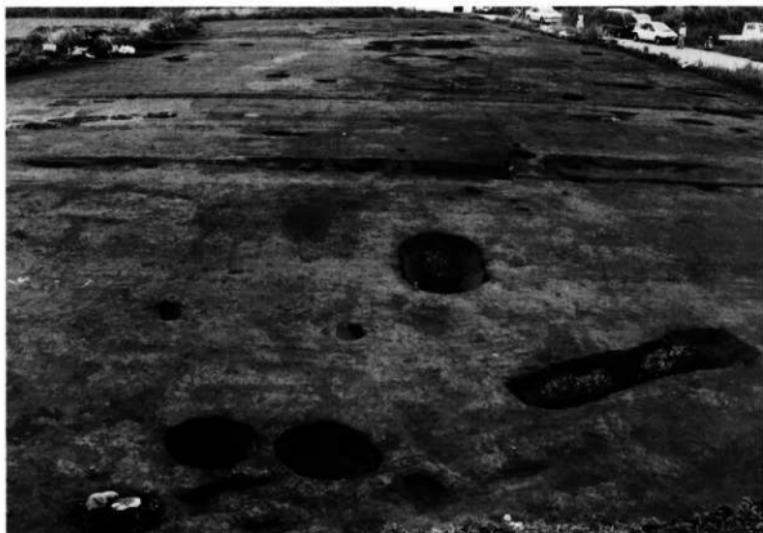
第2表 出土遺物一覧表(2)

層位	遺物種類	位置	石器			石器	竹刀片	鐵鏃石剣片	鐵鏃	凹石	○その他
			打痕石器	刃剥石器	直刃石器						
B-1		2			1			1		5	
C-1		1		1					2	5	1
C-2		3							4	4	
C-3		1							1		
D-1		3							1		
D-2		1							2		
D-3		2							1		
D-4		2							1		
E-3		2			1				1		
F-3		2							1		
F-4		3							1		
F-5		1							2		
G-2		2		1					1		
G-3		2							1		
H-1		6							1		
H-2		1							3		
H-3		1									
H-4		1									
H-5		1									
I-1									1		
I-2		2							1		
J-0									1		
J-3		1			1				1		
K-0									1		
1 住居跡		2							1		
2 石斧		3									
3 石鎌		3									
4 石刀		3									
5 銀注		3							12	1	
		277	4	15	1	4	1	125	7	1	49
									6	6	8

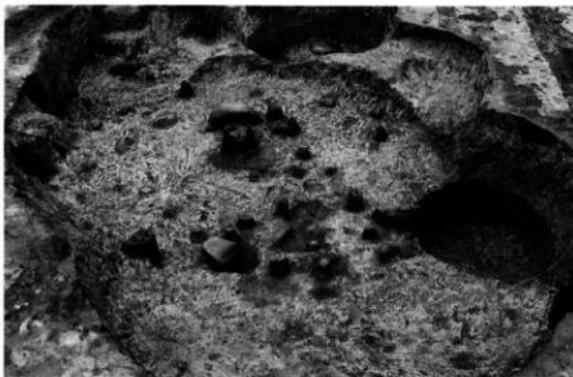
図版 I



(1) 調査区全景 (東から)



(2) 調査区全景 (西から)



(1) 1号住居址遺物出土状態
(南から)



(2) 1号住居址遺物出土状態
(北から)



(3) 1号住居址完掘状態
(南西から)

図版 3



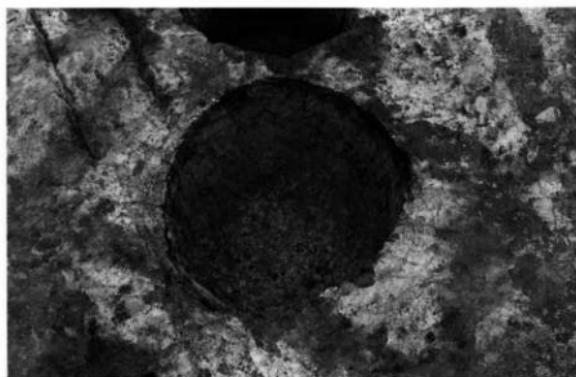
(1) 1号土坑遺物出土状態
(北から)



(2) 2号土坑完掘状態
(西から)



(3) 3号土坑完掘状態
(南西から)



(1) 4号土坑完掘状態
(南から)



(2) 5号土坑完掘状態
(南から)

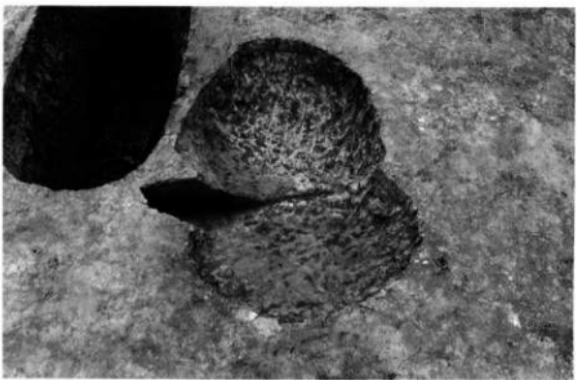


(3) 6号土坑完掘状態
(南から)

図版 5



(1) 7号土坑完掘状態
(南から)



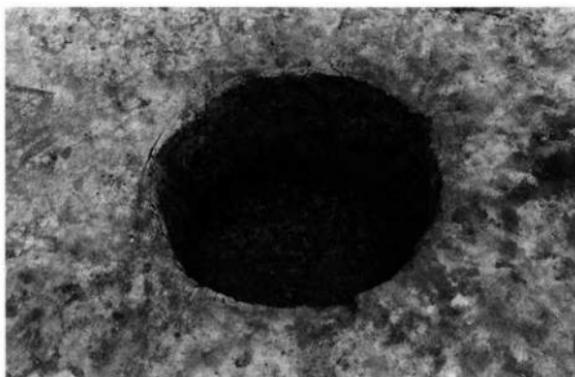
(2) 9(手前)・13(奥)号土坑完掘状態(南から)



(3) 9(左)・8(中)・
13(右)号土坑完掘状態
(東から)



(1) 10・11号土坑完掘状態
(南から)

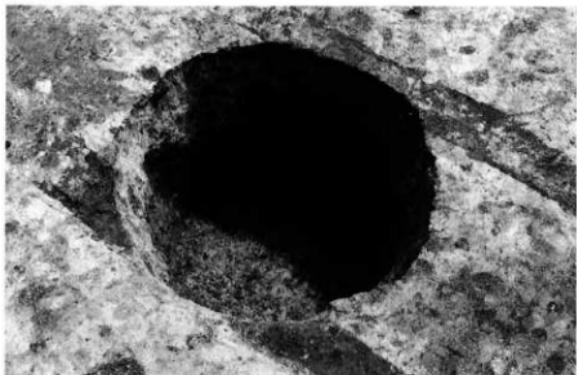


(2) 12号土坑完掘状態
(南から)



(3) 14号土坑焼土範囲
(南から)

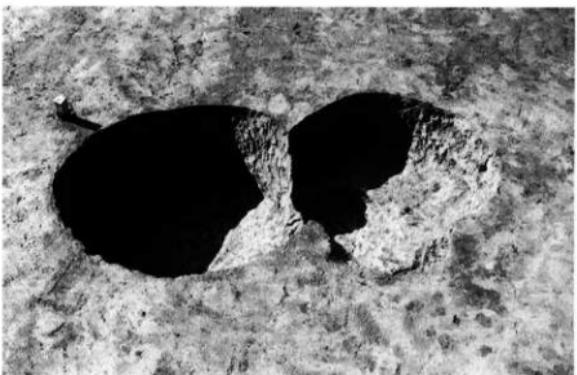
図版 7



(1) 14号土坑完掘状態
(南西から)



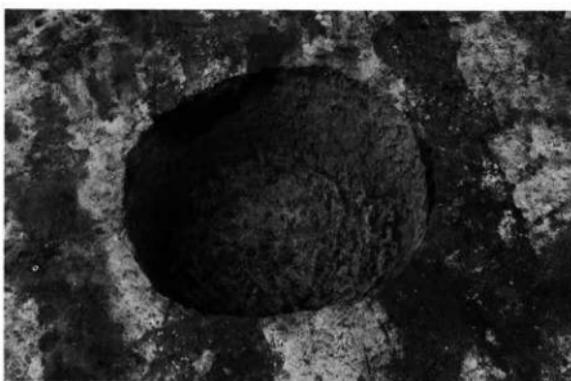
(2) 15号土坑完掘状態
(南西から)



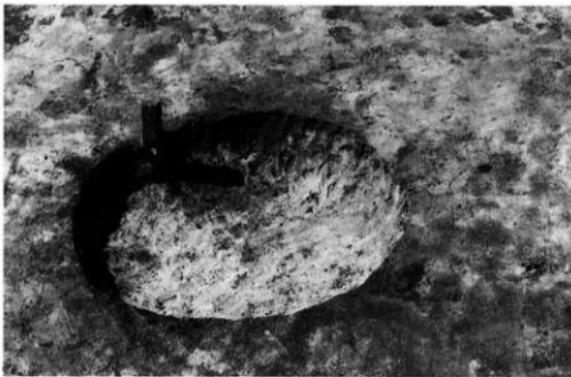
(3) 16(左)・31(右)号土坑
完掘状態(南から)



(1) 17号土坑完掘状態
(南から)



(2) 18号土坑完掘状態
(南から)

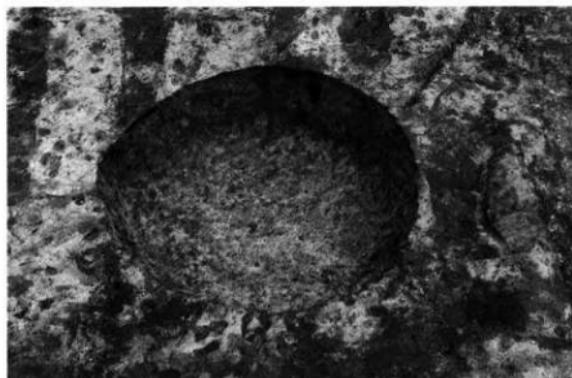


(3) 27号土坑完掘状態
(南東から)

図版 9



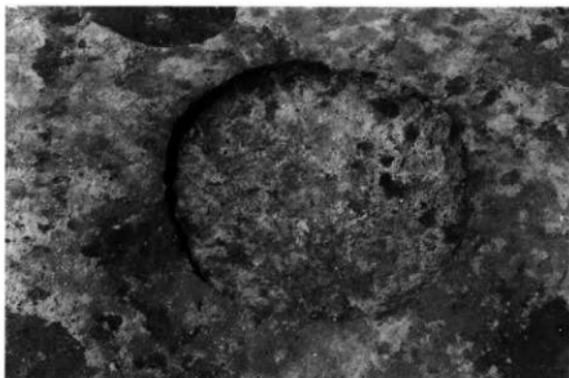
(1) 28号土坑完掘状態
(南から)



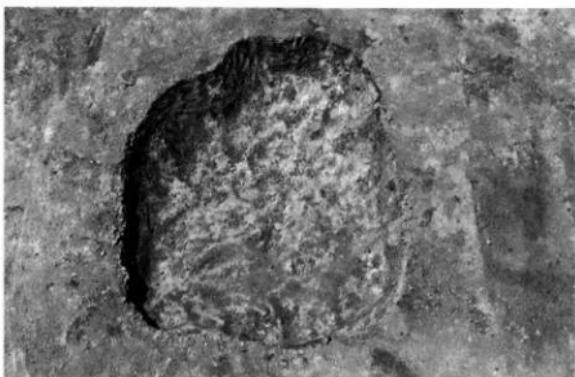
(2) 30号土坑完掘状態
(南から)



(3) 32(左)・33(中)・
34(右)号土坑完掘状態
(東から)



(1) 35号土坑完掘状態
(南から)



(2) 36号土坑完掘状態
(南から)

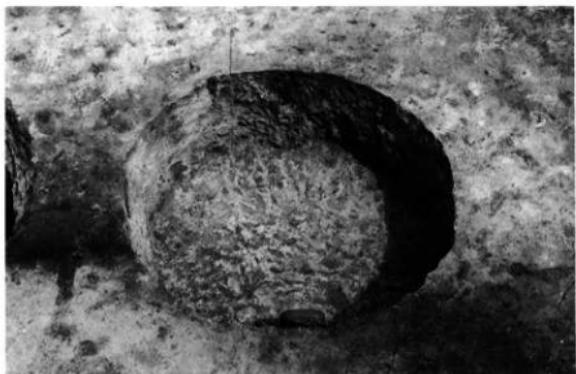


(3) 37号土坑（奥）・15号土坑
(手前) 完掘状態（南東
から）

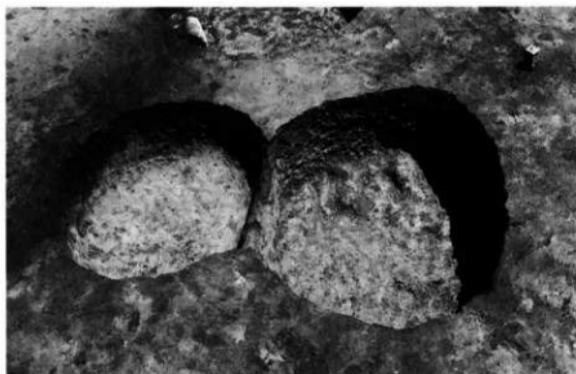
図版II



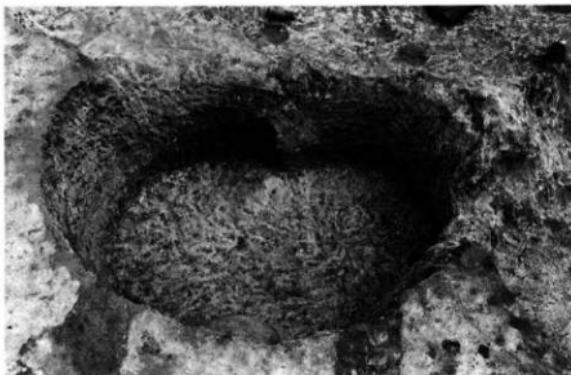
(1) 38号土坑(左)・39号土坑
(右) 完掘状態(南東か
ら)



(2) 40号土坑完掘状態
(西から)



(3) 41(左)・42(右)号土坑
完掘状態(南西から)



(1) 45号土坑(左)・44号土坑
(右) 完掘状態(北から)



(2) 47号土坑完掘状態
(南から)



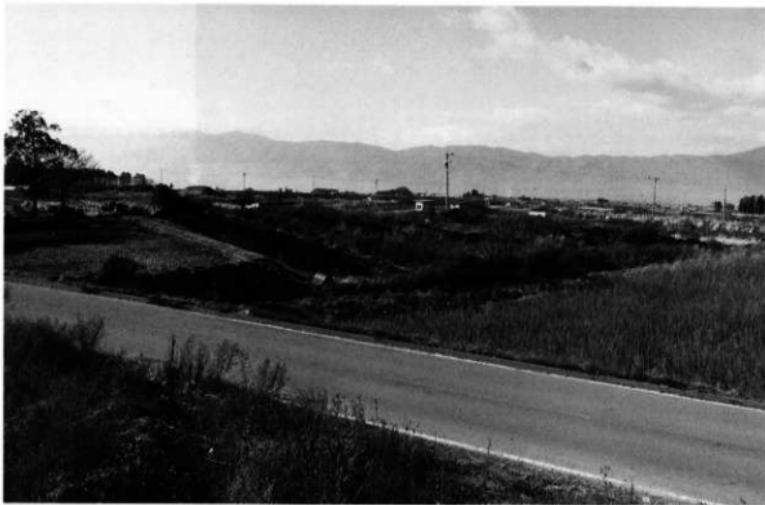
(3) 独立土器半截
(北東から)

鹿垣遺跡

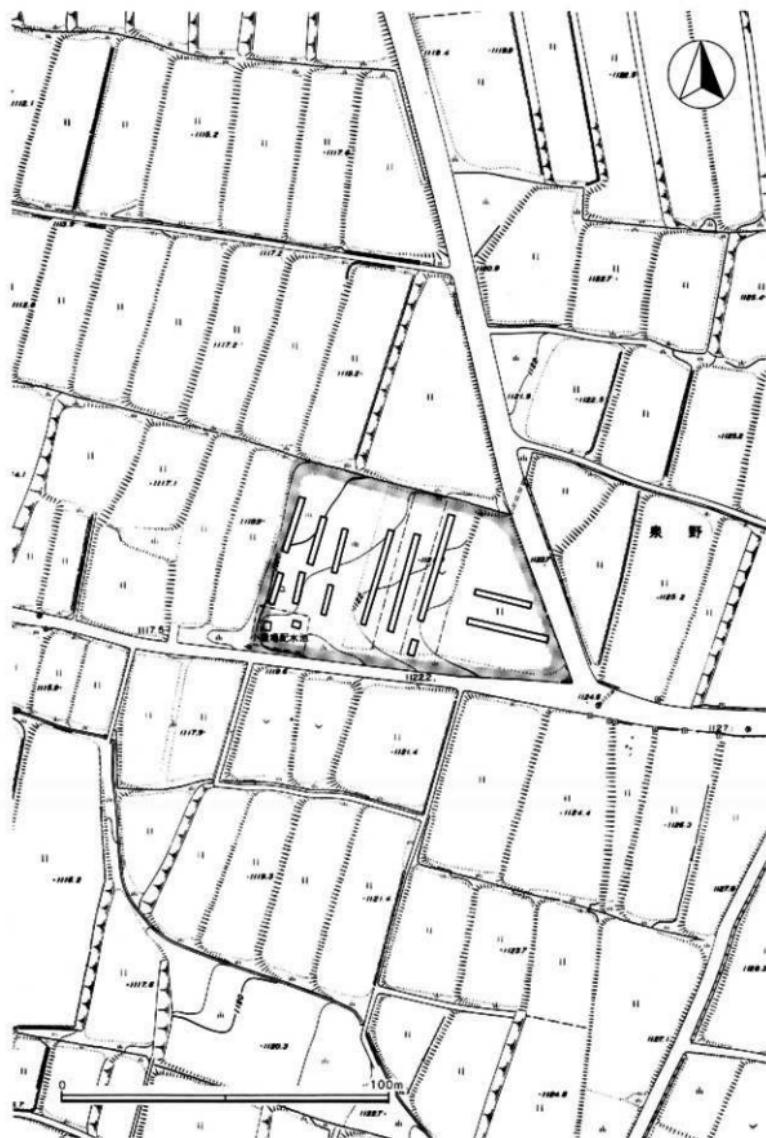
- 1 位 置 茅野市泉野5733他
- 2 調査理由 担い手育成基盤整備事業茅野東部地区に伴う発掘調査
- 3 調査方法 重機を用いたトレンチ法
- 4 調査期間 平成9年11月10日～11月11日
- 5 調査結果と所見及び処置

遺跡地と考えられる範囲約4,000m²に対し11トレンチ（442m²）を発掘した結果、遺構は検出されず、縄文中期とみられる土器小片が1片出土したのみに終わった。遺跡の現状は、東の水田部分が現地表面より50cm以上削られ旧地形は残っていない。これより西の部分は旧地形を残すものの尾根の頂部付近はローム層まで削られている。北側の谷部は礫を大量に包含する地形となっている。

『茅野市史 上巻』によれば鹿垣遺跡からは「縄文時代中期の勝板式土器片・石鎌・打製石斧・凹石が採集」されている。上記の様に遺跡の遺存状況は良くないが、この調査で確認された遺跡の希薄さは、後世の搅乱作用によるものではなく遺跡の性格によるものと考える。なお、鹿垣遺跡の取り扱いについては、平成9年11月17日の保護協議（長野県教育委員会文化財保護課、諏訪地方事務所土地改良課、茅野市土地改良課、茅野市教育委員会文化財課の四者会議）において結果が報告され、今回の発掘にて調査終了とすることが確認されている。



鹿垣遺跡（北東から）



廃垣通りトレント配置図 (1/1,500)

報告書抄録

ふりがな	ししおねいせき・しげがきいせき							
書名	鹿尾根遺跡・鹿垣遺跡							
副書名	平成9年度担い手育成基盤整備事業茅野東部地区発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	小林深志・小林健治							
編集機関	茅野市教育委員会							
所在地	〒391-8501 長野県茅野市塙原二丁目6番1号 Tel0266-72-2101							
発行年月日	西暦 1998年 3月 25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
しおね 鹿尾根	ちのしいすみ の 長野県茅野市 泉野	20214	314	35度 59分 6秒	138 度 14分 20秒	19970519 ～ 19980707	1,500 m ²	担い手育成 基盤整備事 業茅野東部 地区に伴う 発掘調査
しげがき 鹿垣	ちのしいすみ の 長野県茅野市 泉野5733他	20214	169	35度 59分 49秒	138 度 14分 42秒	19971110 ～ 19971111	442 m ²	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
鹿尾根	集落址	縄文時代	竪穴住居址 1軒 土坑 48基	縄文時中期土器 石器				
鹿垣	散布地	縄文時代	なし	縄文時代中期中 葉の土器・石器	発掘結果により調 査終了			

鹿尾根遺跡・鹿垣遺跡

—平成9年度担い手育成基盤整備事業

茅野東部地区に係る発掘調査報告書—

平成10年3月20日 印刷

平成10年3月25日 発行

編集 茅野市教育委員会
発行 茅野市教育委員会
長野県茅野市塚原2丁目6番地1号 (0266)72-2101(代)
印刷 有限会社 森仙印刷所
長野県茅野市本町西3-1 (0266)72-2259
